

2021年度通常公募 団体情報シート			
団体名	一般財団法人世田谷コミュニティ財団	団体web サイトURL	https://scf.tokyo/
主題	都都市部における孤立解消プロジェクト	申請受付番号	220110
		申請事業の分類①	①草の根活動支援事業
副題	世田谷・かわさきコミュニティ財団連携プロジェクト	申請事業の分類②	①-2 地域ブロック
		申請事業の分類③	関東ブロック(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、東京、山梨)
優先すべき社会の諸課題選択科目			
領域①	1) 子ども及び若者の支援に係る活動	領域②	2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動
分野①	① 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援	分野②	④ 働くことが困難な人への支援
	② 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援		⑤ 孤独・孤立や社会的差別の解消に向けた支援
領域③	③ 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	領域④	⑥ 女性の経済的自立への支援
分野③	⑧ 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援	分野④	
-			
-			
-			
申請事業概要			
<p>社会的孤立を解消するには、多様な属性の人々との「新たな関わり」が重要になる。そこで、実行団体には現在の支援対象者以外に、今まで関係してこなかった属性の人とつながる活動を希望したい。それが、社会的孤立感や課題を抱える人々に新たな地域での居場所や役割を提供するきっかけになる。加えて、事業を通して、資金分配団体、実行団体、行政などの関係者のネットワークを強化・確立し、支援の課題やあり方について学び合いの場とし、それぞれの活動や業務に活かすことにしたい。これらを通じて、支援対象者が地域とつながることによって社会的孤立感を解消・軽減することができ、さらには地域の中で役割を持って活躍の場を得ることで充実感・満足感を得て、安心して安定的な生活を送ることができると期待している。</p> <p>なお、具体的な年度ごとの計画は次のようなものである。0年度は実行団体の公募・選定のほかロジックモデルの検討を行い、1年目は実行団体とともに支援対象者を広げるための戦略を検討する。2年目は、実行団体とともに事業継続に関する課題の解決策の検討とリソース・情報の共有とシェアを進め、3年目に終了後を見越した出口戦略の検討と立案を行う。</p>			

団体組織情報		
1	●設立・法人取得年月日	
	設立年月日	2018/04/23
	法人格取得年月日	2018/04/23
2	●団体概要	
	団体概要	当財団は、2018年4月に400人超の発起人・寄付者によって設立された都市型コミュニティ財団である。ミッションは「まちを支える生態系をつくる」。自分のまちを良くしたい「まちのチャレンジャー」と「それを応援するサポーター」を、お金と知恵とネットワークで支え、豊かなつながりとコミュニティをつくるのが役割である。まちの課題を自分事にするを目標に、多くのボランティアの協力を得ながら活動している。
3	●代表者情報	
	代表者名	福永 順彦
	代表者の役職	代表理事
	代表者名 2	
4	●役員	
	役員の数	14人
	(その内) 監事/監査役・会計参与の人数	1人
	置いている監事のうち公認会計士または税理士の人数	1人
5	●事務局職員	
	職員・従業員合計	3人
	以下、職員・従業員の内訳	
	常勤・有給・有期	1人
	常勤・有給・無期	0人
	常勤・無給(有期・無期)	2人
	非常勤・有給・有期	0人
6	●資金管理体制	
	決済責任者、経理担当者、通帳管理者のうち、決済責任者と通帳管理者が異なること	異なっている
	●区分経理・帳簿	
	1.必要な会計帳簿が備えられている	はい
7	2.業務別に区分経理ができる体制である	はい
	●監査	
8	年間決算の監査を行っているか	①監事を実施

助成実績		
1	前年度の助成件数 (件)	1
2	前年度の助成総額 (円)	20万円
助成事業の実績内容		
3	<p>①都市と農 (設立記念助成プログラム)</p> <p>設立後初の助成事業である設立記念助成プログラム「ココロマチ」として、2019年4月にスタートした。助成テーマを検討する際、「農」はその作業を通じてコミュニティづくりの核となり得る存在であり、世田谷には年々減少傾向であるものの多くの農地があることから、これをどう維持していくかが今後の課題と考えた。そこで、この「農」を守り育てるための担い手を募集することにし、2団体を採択した。また、それと並行して、農を守るには、全区的な取り組みとしても進める必要があると考えた。そこで、農家の現状を知る農ツアーの開催や、農に関わる関係者による連絡会を行ってきた中で、JA東京中央の福田常務から声をかけられ、ご自身の農地を活用した「福田コミュニティ農園」を2021年3月にオープンすることになった。これは農園の区画を借りた会員が農家の指導を受けて農作する一方で、会員同士のコミュニティをつくりながら共同の区画を自由に農作するという、いわゆる「市民農園」と「体験農園」の間のモデルである。当財団ではこの農園の運営サポートをしながら、地域の人たちで農地を支えるこのモデルを普及させることで、世田谷の農地の維持につなげていきたいと考えている。</p>	